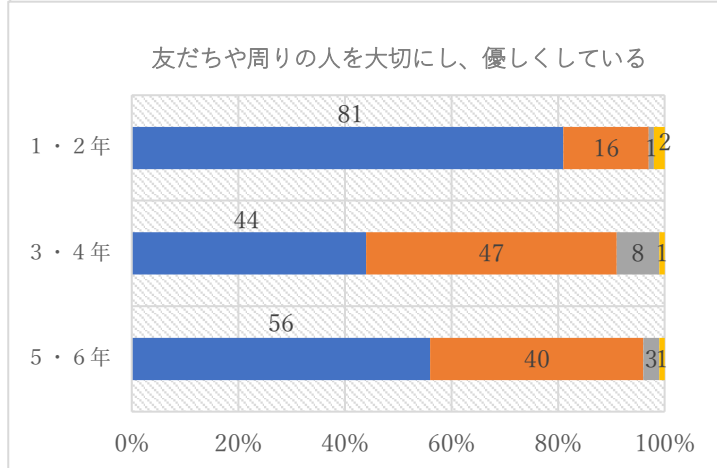
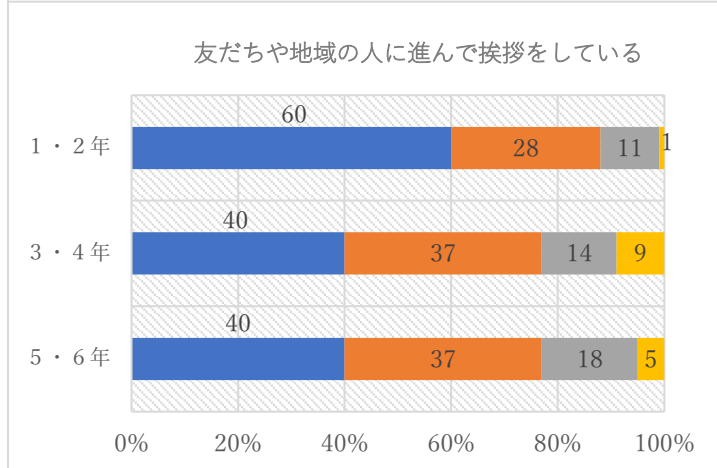
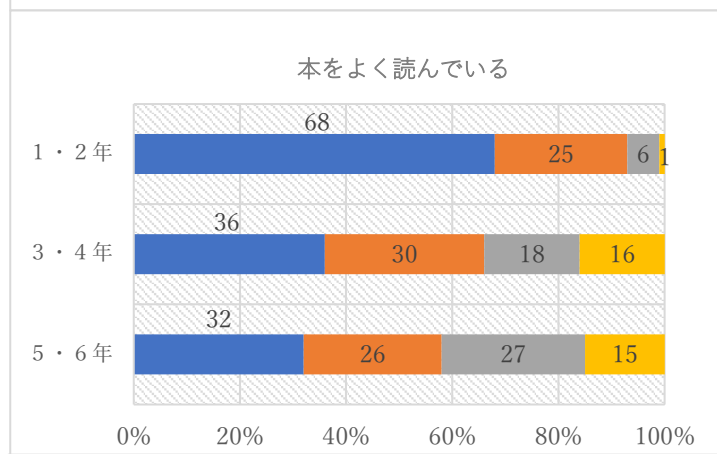
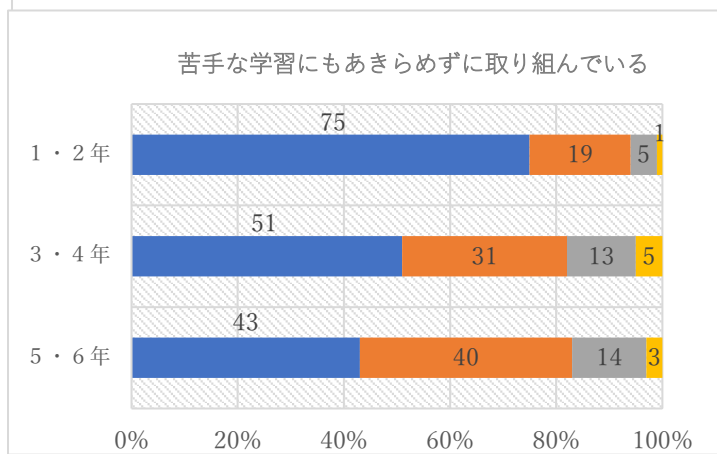
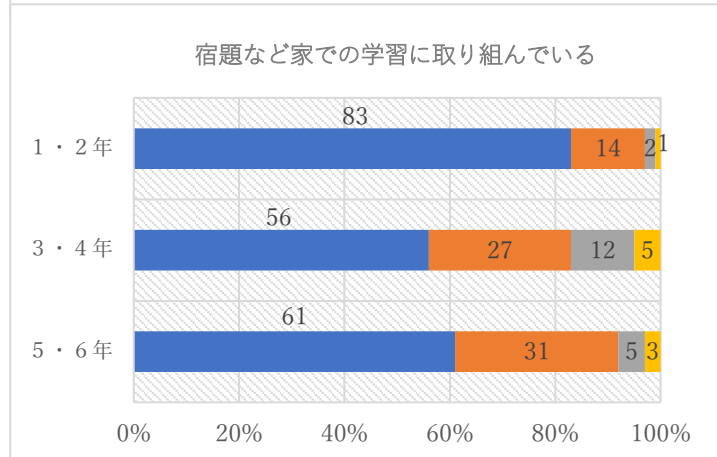
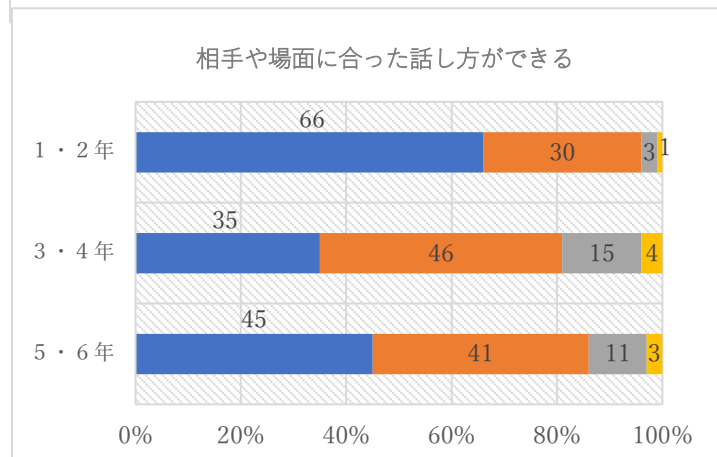
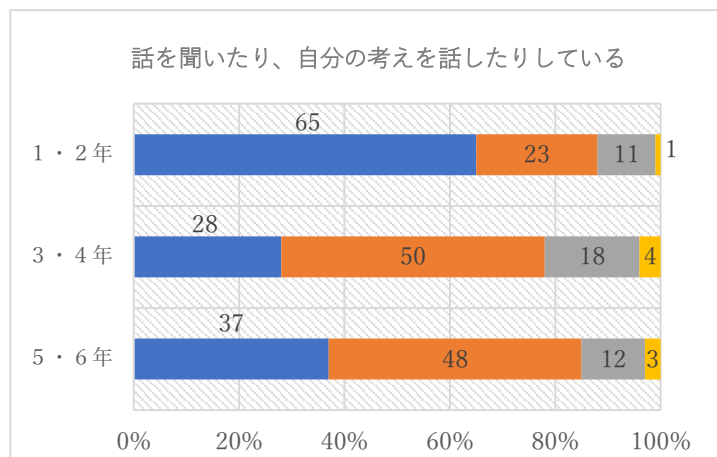
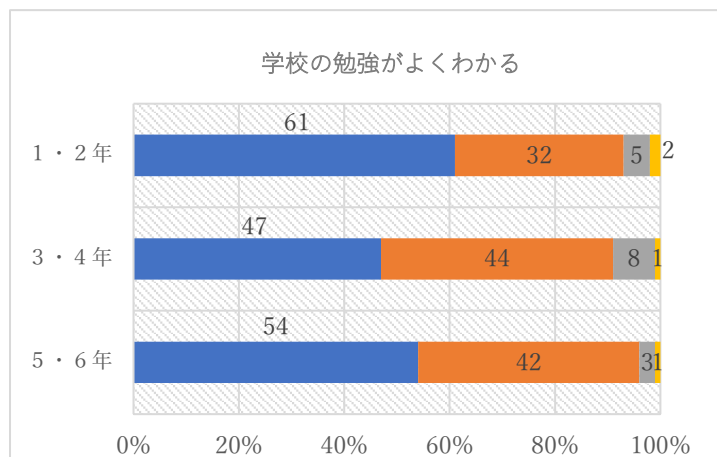


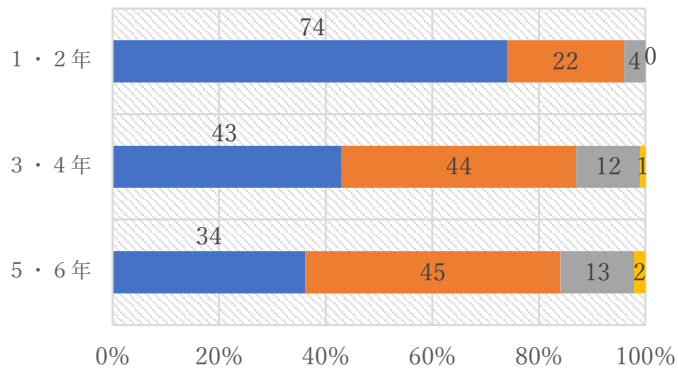
朱八小 前期 ふり返りアンケートの結果 【令和8年度7月実施】

平素は、本校教育推進にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。7月に実施しましたアンケートの結果をお知らせいたします。保護者の方々からも多くのご回答をいただきました。心より御礼申し上げます。

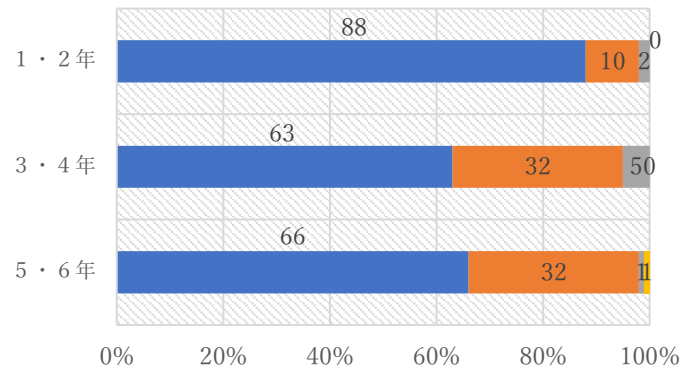
児童の回答結果 そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 【百分率(%)で表示】



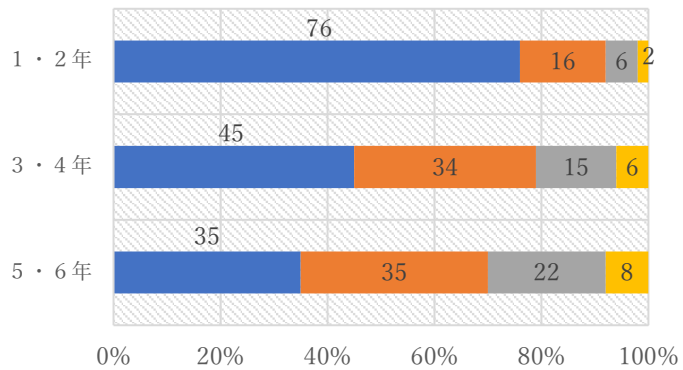
クラスや学校のきまりを守っている



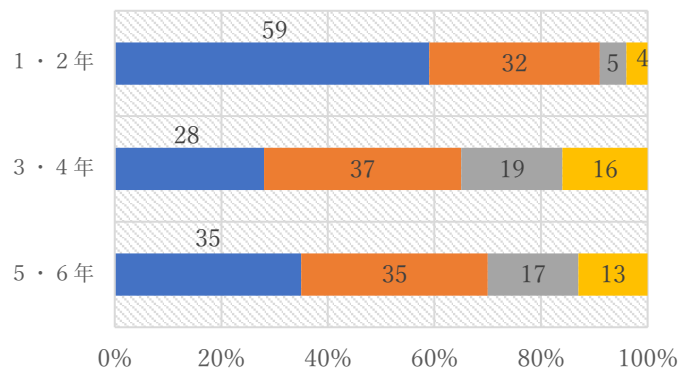
自分やみんなのものを大切にしている



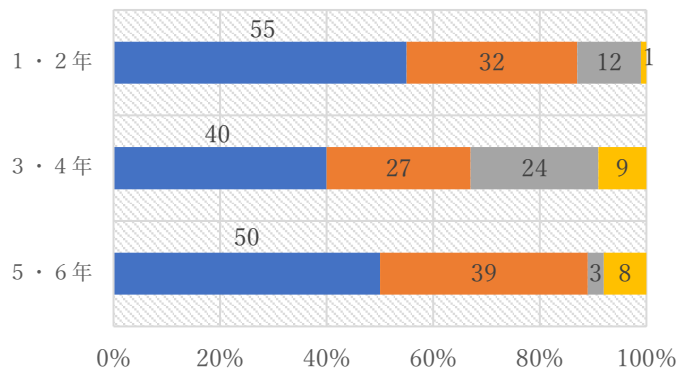
困ったことは家族や先生に相談している



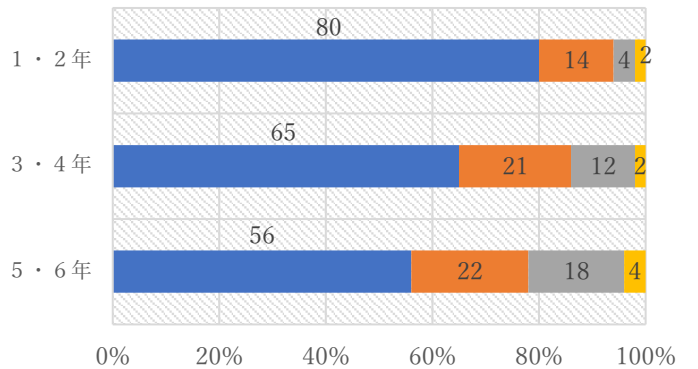
自分のよいところがわかる



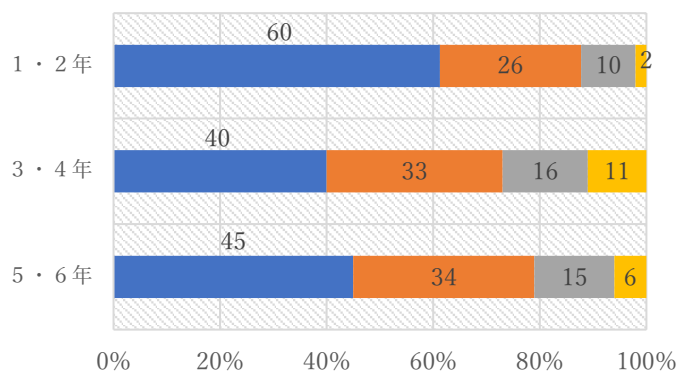
早寝・早起きなど健康的な生活をしている



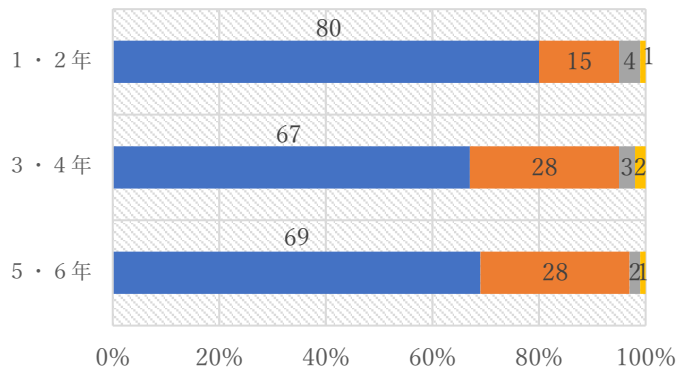
運動や外あそびをしている



食べ物の好き嫌いをしないようにしている

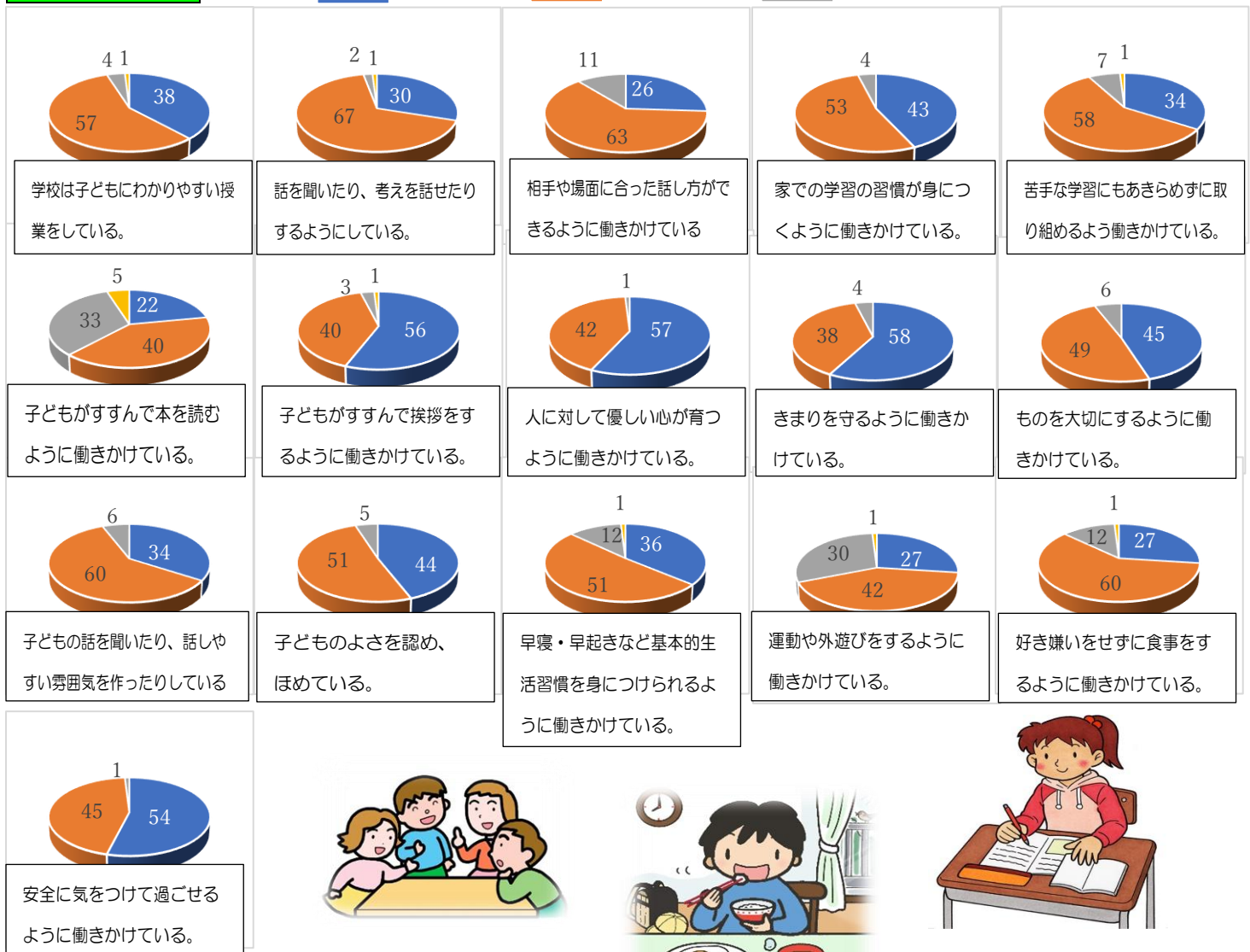


安全に気をつけて過ごすようにしている

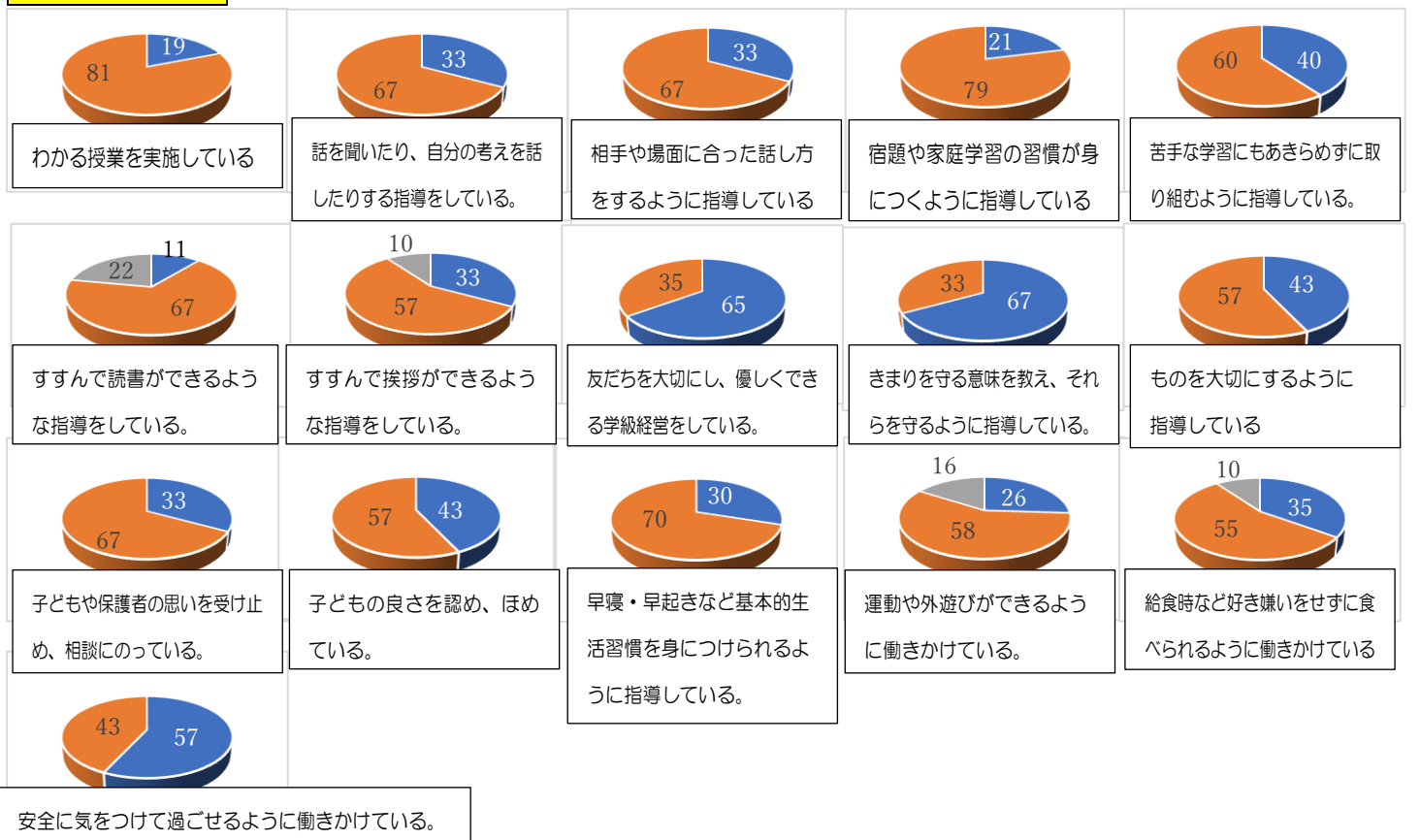


保護者の回答結果

そう思う ■
 だいたいそう思う ■
 あまりそう思わない ■
 そう思わない ■
 【百分率(%)で表示】



教職員の回答結果



「確かな学力の育成」について 児童の『学校の勉強がよくわかる』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は、どの学年も9割を超えていましたが、前回と比べるとほとんど変化がありませんでした。教職員はわかりやすい授業実践を最優先に仕事をしています。この結果に満足せず、さらに教職員一同、授業力の向上に努めています。（教職員の『子どもにわかる授業を実施している』に「そう思う」と回答した割合は19%で前回比6ポイント減） また、児童の『宿題など家での学習に取り組んでいる』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は、全体的に前回よりも増加しており、とくに高学年は約10ポイント増加していました。保護者の『家での学習が身に付くように働きかけている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合も96%と高く、ご家庭でも強力に後押しをいただいていることが伺えます。いつもありがとうございます。家庭学習の習慣を身につけることは、確かな学力定着はもちろん、生涯に渡っての自己調整力としても役立ち、将来なりたい自分に向かって、主体的にスキルアップし続ける力にもなります。学校でも、課題を工夫したり、提出物に対して自己肯定感がもてるようなリアクションを返したりして、さらに子どもたちが自主的に家庭学習に取り組めるように支援していきます。さらに、前回の結果報告の中で、読書習慣がある児童が減少していることを課題として挙げましたが、今回、児童の『本をよく読んでいる』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は、高学年は10ポイント、低学年は14ポイント増加しており、改善の傾向が見られました。教室でも休み時間に、保護者にも買ってもらったという本を広げ、読書を楽しむ子どもの姿もあります。また、地域ボランティアの方々による継続した絵本等の読み聞かせ、学校での選書会、図書委員会による各種イベント等、家庭や地域、学校での適切なサポートが実を結んだとも考えられます。しかし、依然として満足できるような数値ではありません。今後とも、さまざまな立場の方々が協力して読書の取組を推進していければと思います。

「よりよい人間関係作り」について 児童の『周りの人を大切にしている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた割合が、前回から引き続き、どの学年も9割以上あり、多くの児童が友だちに優しくしようとしていることが伺えます。保護者の『人に対して優しい心が育つように働きかけている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合も99%と非常に高く、ご家庭でも人権感覚が高まるような取組をいただいていることがわかります。また、児童の『自分やみんなのものを大切にしている』の質問にも、同様に9割以上の回答が得られていました。しかし、学校内の落とし物コーナーには、定期的に処分しなければならないほどの持ち主不明の落とし物が溜まっていくなど、まだまだ子どもたちには指導が必要です。今後も「人・もの・時間を大切に」をキーワードに、担任などの教員から声かけを続けていきます。（教職員の『ものを大切にするよう指導している』に「そう思う」と回答した割合は43%、「だいたいそう思う」と回答した割合は57%） また、児童の『友だちや地域の人に進んで挨拶をしている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が、低学年は9割近くありましたが、中学年と高学年は8割に達していませんでした。学校では、友だちとの関係を円滑かつ良好に築いてほしい、大人になっても生かせるコミュニケーション力のひとつとして確実に身につけてほしいと考え、挨拶を自ら充実できるように継続的に指導をしています。ご家庭でも、引き続き「おはよう」「ただいま」「いただきます」などの挨拶が自然と出るような環境を整えていただくようお願いします。（保護者の『子どもにすすんで挨拶をするように働きかけている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は96%）

「基本的な生活習慣の確立」について 児童の『早寝・早起きなど健康的な生活をしている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた割合が、前回と比べて、中学年は4ポイント減少していましたが、低学年は5ポイント、高学年は15ポイント、それぞれ増加していました。引き続き、子どもたちが心身ともに万全の状態授業に臨めるように、ご家庭でも早寝・早起きの習慣が身に付くための支援いただければと思います。（保護者の『早寝・早起きなど基本的な生活習慣を身につけられるように働きかけている』に「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は87%） 学校でも、保健学習や学級活動等の場で指導を行っています。また、児童の『食べ物の好き嫌いをしないようにしている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は、全学年7割～8割でした。給食でも毎日残飯が多く残り、“食品ロス”が給食調理員をはじめ、教職員の悩みの種となっています。毎回の食事をしっかり摂ることは、体の健康的な成長はもちろん、集中力や思考力を支え、学力を身につける一助にもなります。学校でも、無理に決まった量を食べさせることを目的にするのではなく、自分の体調や食べられる量に合わせながら給食に向き合うことで、食べ物やそれに携わって来た方々の思いを大切にする気持ちを育てていきたいと思っています。（教職員の『給食時など好き嫌いをせずに食べられるように働きかけている』に「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は90%）